

知ハ**カ**ナリ 無知は**カ**ナリヤバイ

2017年度 都市計画実習 公共サービスの共創班 中間発表

班長： 高尾尚宏

副班長：加古捺巳、手塚勇太

DB： 麓国広

書記： 高橋遼太郎、間々田桜子

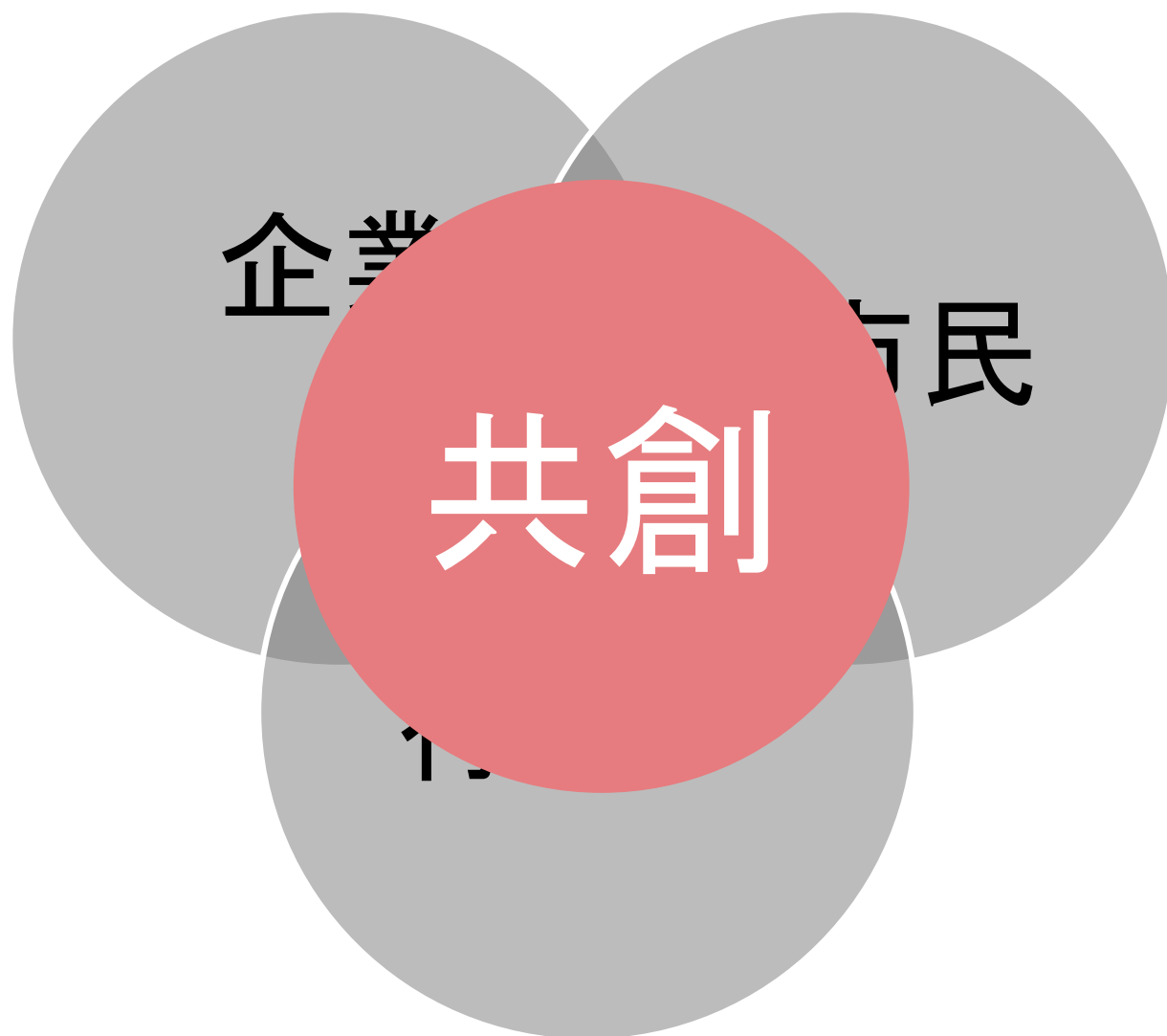
渉外： 内藤朱里、平井孝侑

PR： 松本一平

担当教員：川島宏一

TA：野口宇宙

はじめに

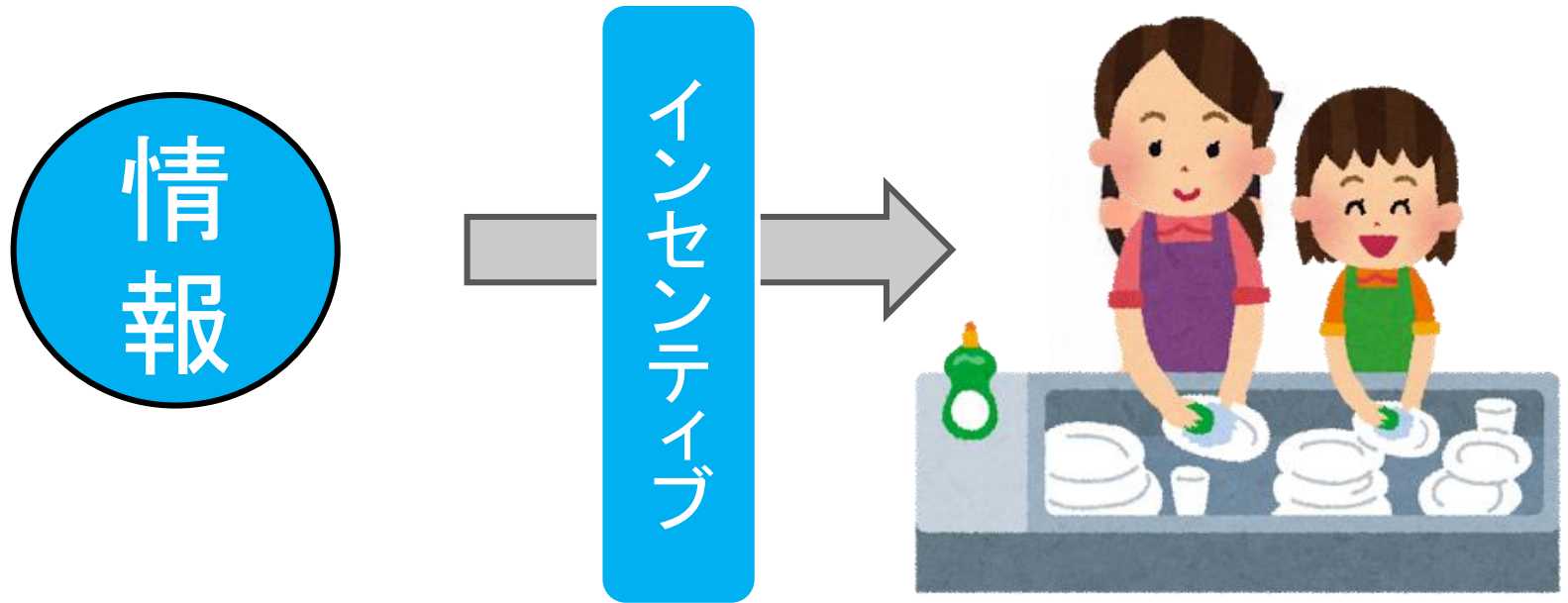


インターネットの普及・情報があふれている

情報のあり方 発信の仕方



人々の意思決定や判断に大きな影響



インセンティブのある情報が
適切な手段で共有されることが必要

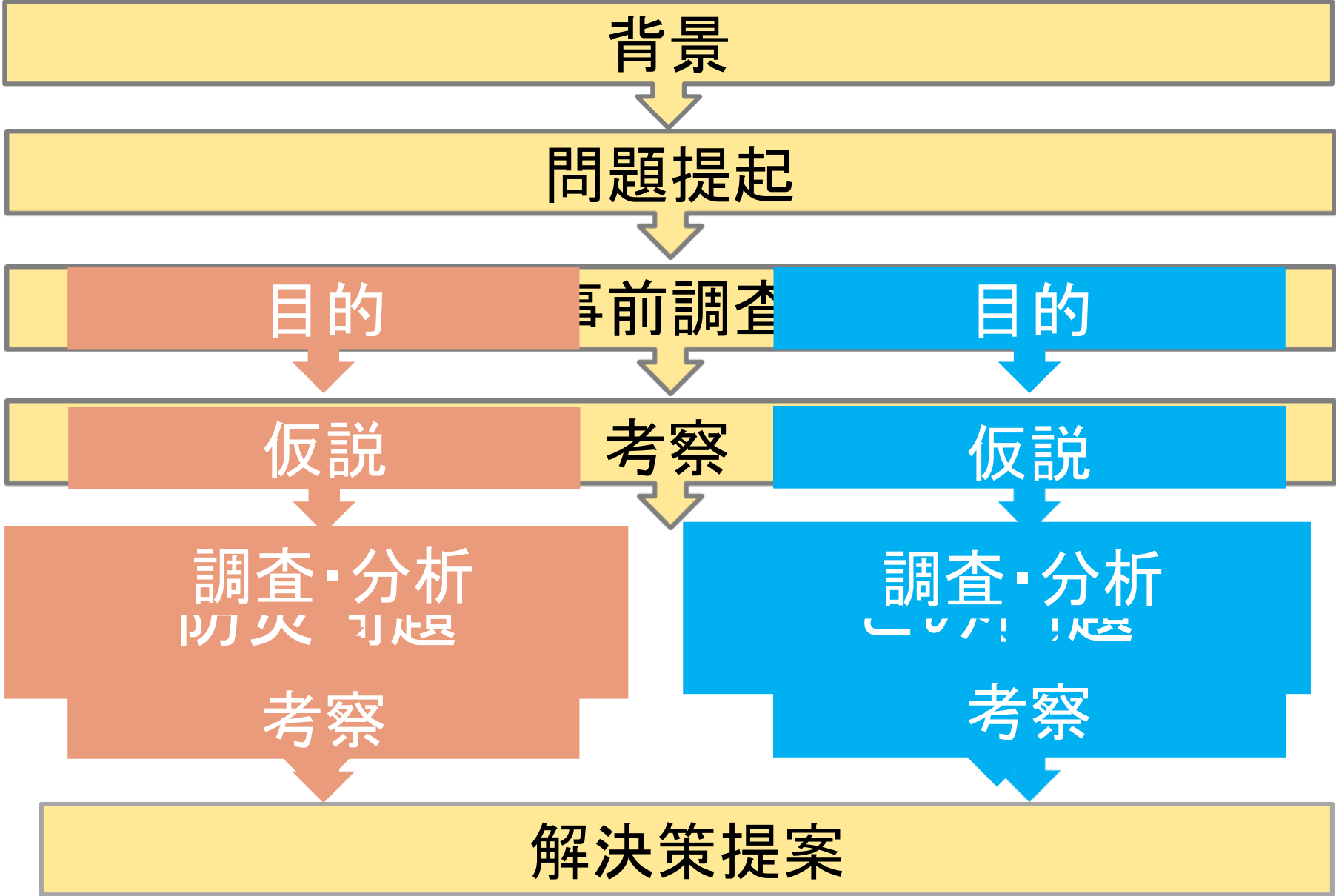
問題提起

◆ 対象： つくば市民

◆ 目標：

人々の行動を促す情報を、
その所有者から市民へと伝えるための
効率的な手段を提案する

調査の体系



ヒアリング調査

◆場所： つくば市役所

◆日時： 2017年5月9日(火)

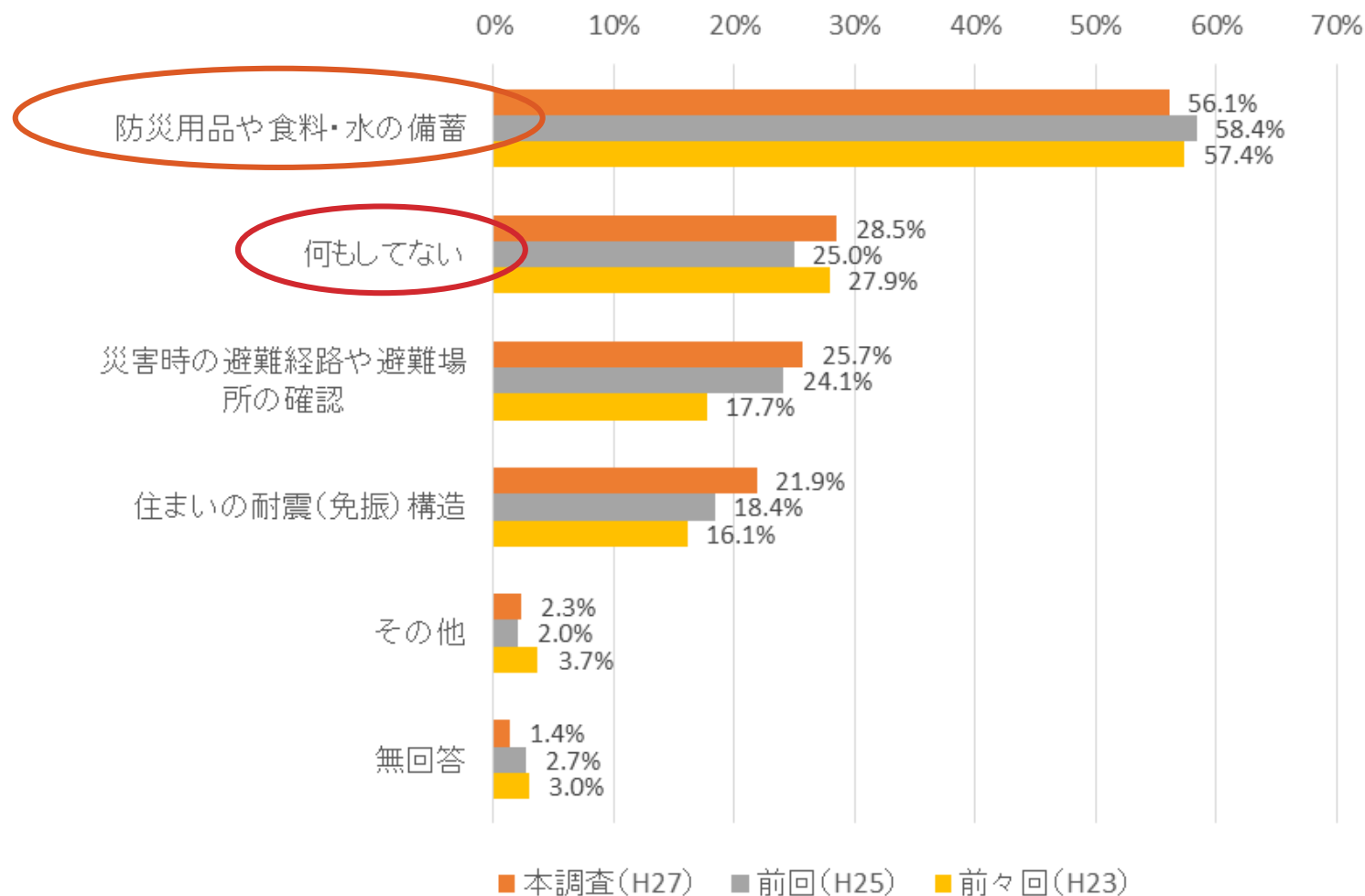
◆対象者： つくば市役所危機管理課 鬼塚様



◆調査結果

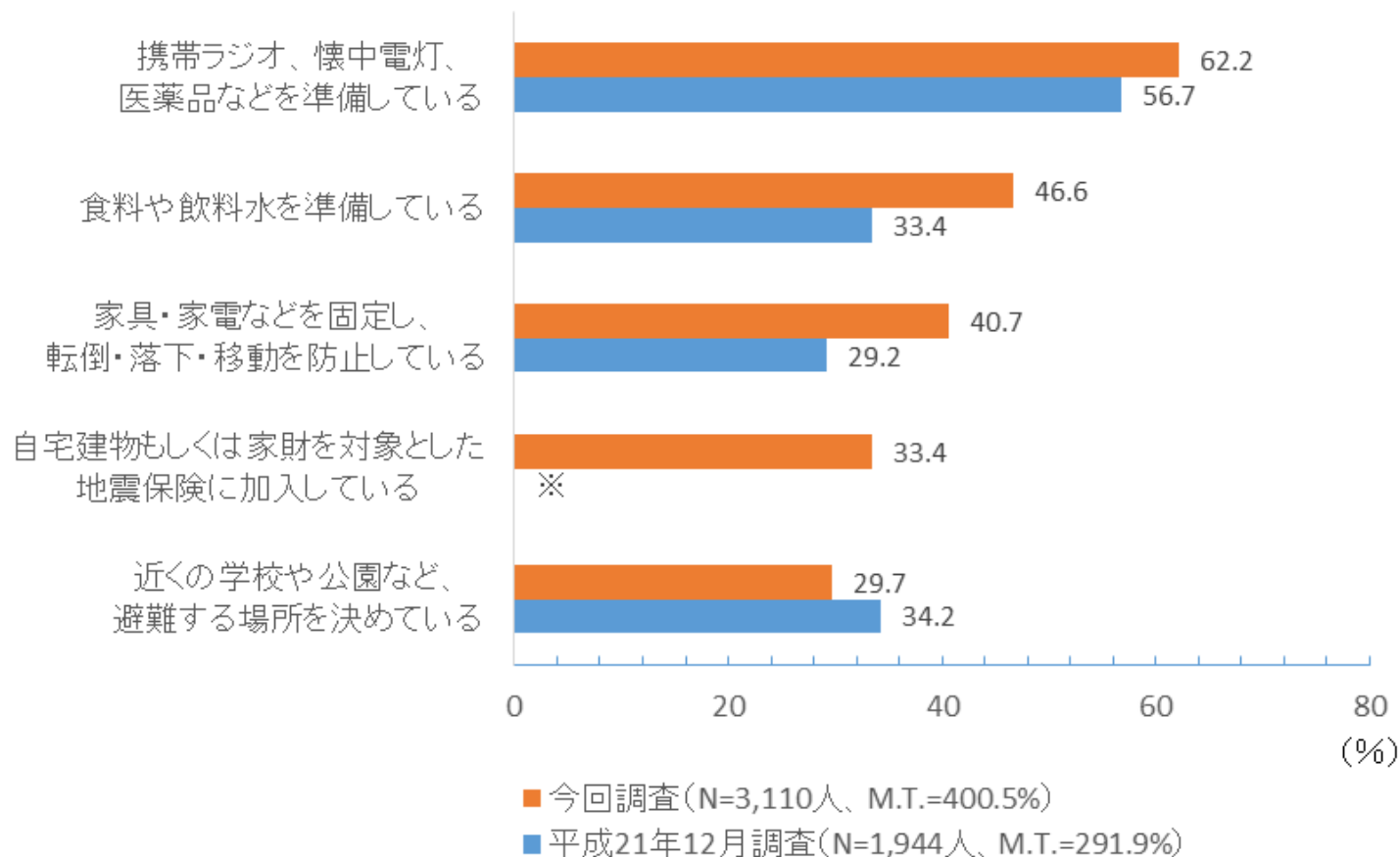
- ・避難所に行くことよりも**家の中で安全にすることが大切**
- ・現在では家が倒壊することはほとんどない
 - 家の中で怪我をしないことが重要
- ・自分たちで**自分に合ったものを備蓄**してほしい
- ・つくば市の多くの地域では災害のリスクが低い
 - 市民自ら**情報を手に入れよう**としない

◆つくば市 平成27年度意識調査

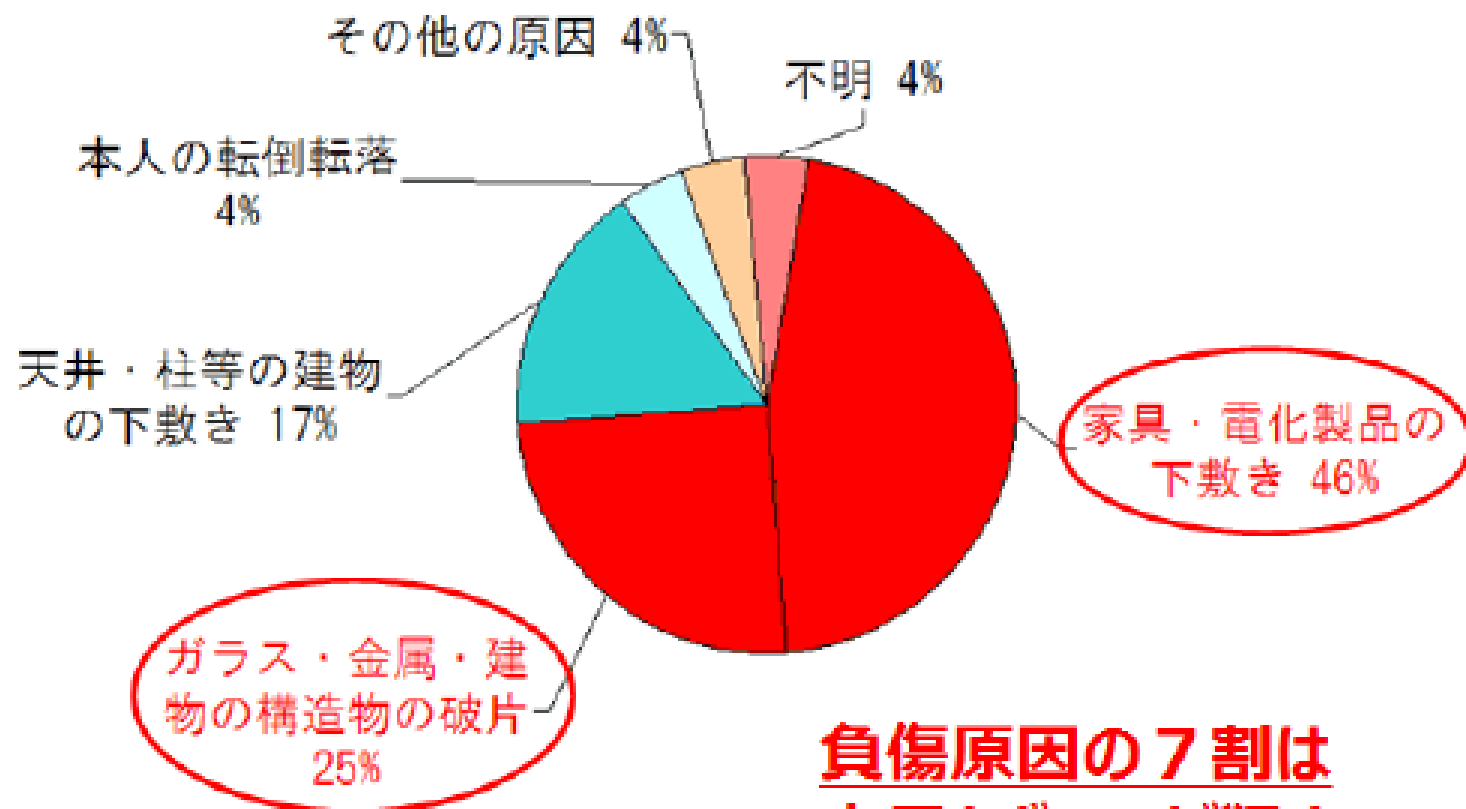


本調査有効回答数: 1233

◆内閣府 平成25年度防災に関する世論調査



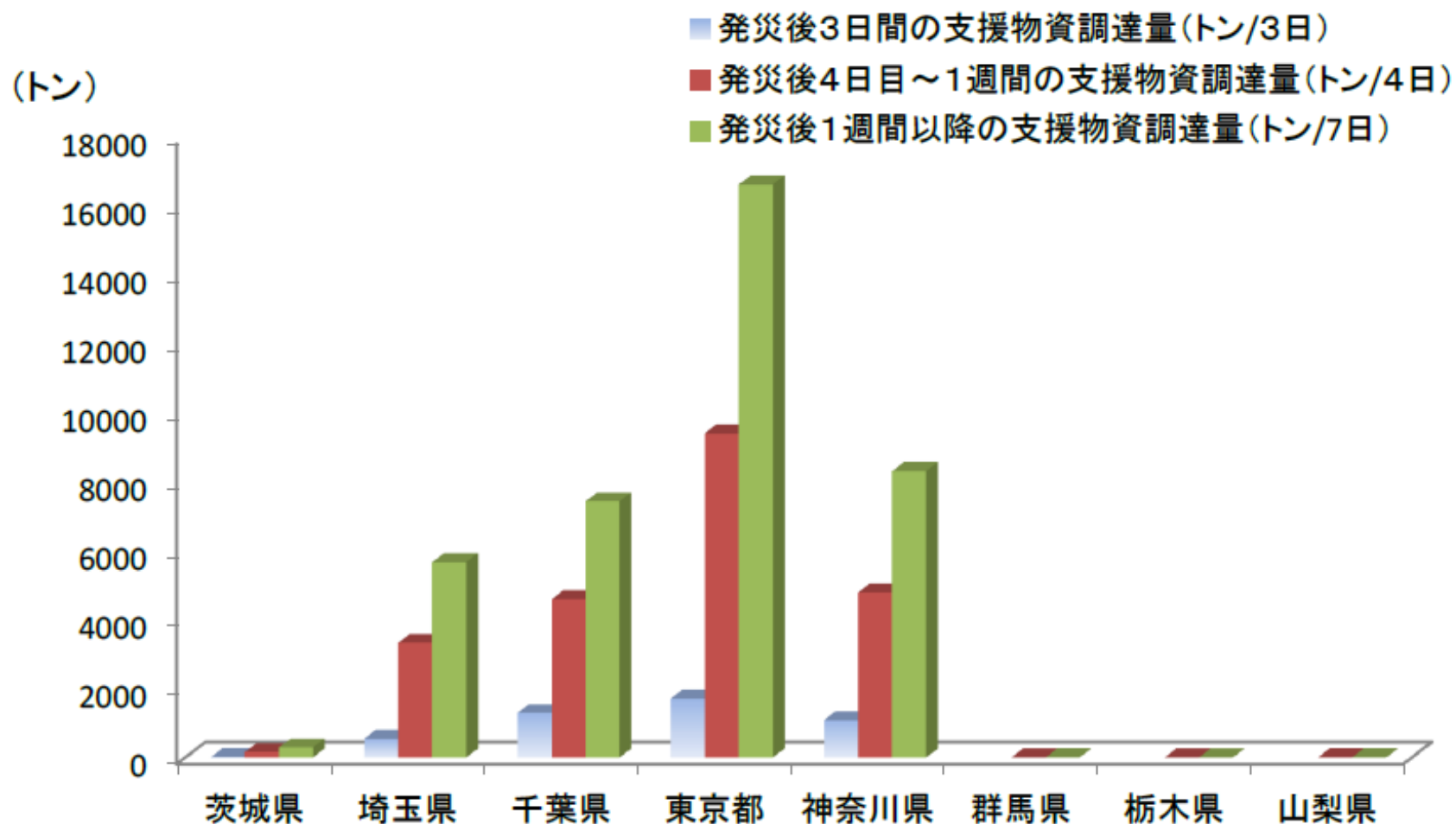
◆震災時の負傷者の原因



**負傷原因の7割は
家具とガラスが犯人！**

参考：「阪神大震災による建造物の損壊と負傷に関する実態調査」調査結果（1996年）

◆各都県の時間経過に即した物資の調達量



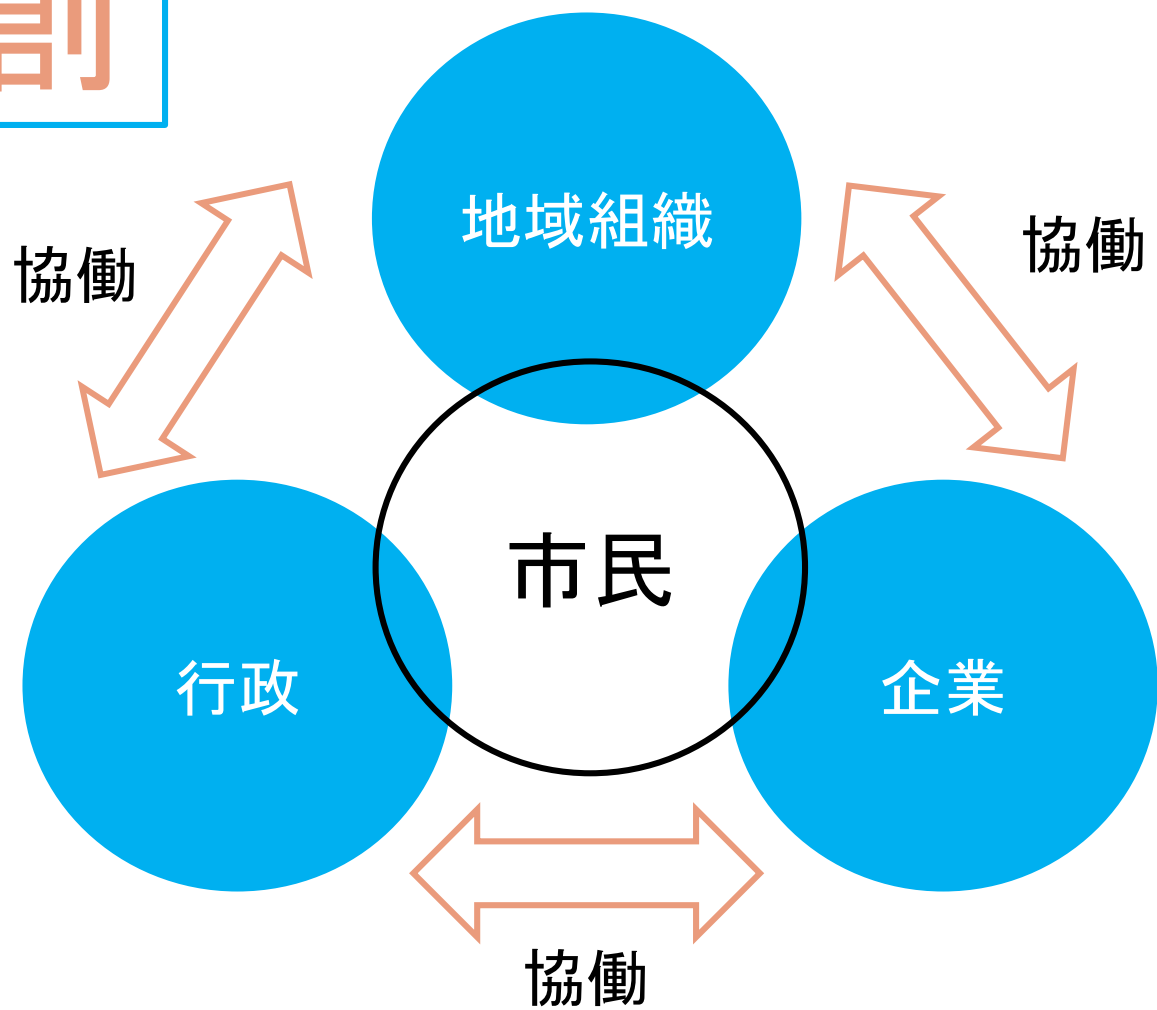
参考:「首都直下地震等に対応した支援物資物流システム」

考察・分析

- ①震災時の負傷原因の7割は
転倒した家具とガラス等の破片
→**転倒防止**を促すインセンティブ

- ②市の備蓄や支援物資・周辺店の在庫だけでは
食料を賄うことができない
→**備蓄**を促すインセンティブ

共創



「災害時のケガの防止には
家具の転倒防止対策が有効」
という情報を受け取った人は
費用と手間をかけて対策をする

「行政が提供する物資や
民間企業の在庫のみでは
食料不足になる」
ことを知れば、
市民の備蓄量は増加する。

今後の予定

〈防災問題〉

- ◆「十分な転倒防止対策、備蓄ができている状態」についての定義
- ◆ アンケート調査
 - ・ 転倒防止
 - ・ 備蓄率
 - ・ 防災準備をしていない理由

〈ごみ問題〉

- ◆ 市役所へのヒヤリング
- ◆ インセンティブのある情報の模索

〈全体〉

人々の行動を促す情報の伝達手段
使われていないが活用できる資源 } の発掘

参考文献

- 1.つくば市：2015『平成27年度つくば市民意識調査報告書』
- 2.つくば市：2011『平成23年度つくば市地域防災訓練に関するアンケート』
- 3.清水裕：2008『大学生の防災行動の実態と防災行動を想定する要因』
- 4.片田敏孝他：2011『住民の防災対応に関する行政依存意識が防災行動に与える影響』災害情報：日本災害情報学会誌（9），114-126
- 5.内閣府：2013『防災に関する世論調査』
- 6.阪神大震災による建造物の損壊と負傷に関する実態調査委員会：1996『阪神大震災による建造物の損壊と負傷に関する実態調査』
- 7.都市計画実習防災班：2009『その時つくばが動いた～備蓄を確保せよ～』
- 8.国土交通省：2013『首都直下地震等に対応した支援物資物流システム』